

道岳連だより

広報 NO58
平成22年7月2日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

鎌田会長ご勇退

新会長小野体制発足

平成22年度北海道山岳連盟総会

去る5月9日（日）札幌市豊平区の「きたえーる」において、北海道山岳連盟平成22年度総会が開かれ、道岳連を育ての親とも言える鎌田会長がご勇退され、小野新会長が誕生しました。

それに伴い、鎌田会長とともに西城副会長も共に現役を引退され、新たに副会長として札幌山岳連盟会長の佐藤真氏が就任しました。その他、土屋・太田両副会長、宮西・石田両監事は留任し、これから2年間、道岳連の舵取りをすることになりました。

既に進行している諸事業の充実発展に加えて、道岳連財政の建て直し、新事業の開発育成、傘下各山岳団体との連携強化、一般登山者への啓蒙など、まだまだ道岳連が果たさなければならない課題が山積みされている中で、小野会長の手腕が大いに期待されます。是非頑張ってください。

ご苦労様 鎌田前会長

ここで前会長鎌田耕治氏のご功績を振り返って見ましょう。

鎌田氏は小樽山岳会から1986（昭和61）年常任理事として道岳連の仕事に入り、その後1996（平成8）年からは理事長を4期8年務めました。2004（平成16）年には副会長、そして2006（平成18）年からは会長として2期4年間腕を振りました。

その間理事長時代には普及事業委員会を立ち上げ、道岳連の財源として各種普及事業を興しました。その中の特筆すべき事業として今日定着している「中高年安全登山講習会」があります。現在では、急激に増え始めた中高年登山者の安全登山への意識向上に大変有意義な事業となっています。

また、道岳連の活動拠点として日高町の中学の廃校舎を借り受けた「登山研修所」の開設もいたしました。平成12年には道岳連創立50周年事業として「エベレスト登山隊」を派遣し、チベット側から江崎隊長以下、工藤隊員、高橋隊員の全員登頂の快挙を成し遂げました。その他、「きたえーる」のクライミングボードの設置、全日本登山体育大会（大雪山）の主管、少年少女登山教室の開設など、まさに八面六臂の大活躍で、文字通り道岳連の牽引車といっても過言ではありません。

副会長時代は全日本アイスクライミング選手権を立ち上げ、下川山岳会の協力を得て会長時代も含めて3回主管しました。会長時代は再び全日本登山体育大会を十勝岳連峰・芦別岳で開催し、永年改訂を繰り返して

きた「道岳連規約」を整理・改訂をするなど精力的な活動を促しました。会計処理の定型化も実現させました。

その功績は歴代の理事長・会長の中でも特筆すべきものに違いありません。

その功績を讃えて、総会終了後に表彰状と記念品を贈りました。記念品は厚手の登山シャツですが、その左胸に Mr. Koji Kamata. You are always together with H.A.A. (鎌田耕治氏、常に道岳連と共に) の金文字刺繍を入れてその功績を讃えました。

本当に長い間ご苦勞様でした。そして、有難うございました。

理事長、常任理事の選任

総会に先立つ前年度の第3回理事会（3月7日）で、会長選任による常任理事が報告されました。

（留任）

石丸芳子（札岳連；事務局長）	神山 健（えぞ山道会；総務委員長）
明田通世（札岳連；指導委員長）	荒堀英雄（十勝岳連；普及委員長）
齊藤邦明（十勝岳連；遭難対策委員長）	山納秀俊（高体連；競技委員長）
工藤 寛（レインボークラブ；海外委員長）	石井昭彦（札岳連；競技副委員長）
増子麗子（クーラカンリ；普及ジュニア）	刈谷勝利（下川；総務）

（新任）

佐藤 健（岩岳連；自然保護委員長）	内藤美佐雄（美瑛；総務）
藤木晴夫（室岳連；指導）	宮崎松雄（苫岳連；普及）

総会の後の第1回理事会で、会長選任の新理事長が報告されました。

神山 健（えぞ山道会；総務委員長兼任）

今後の諸行事

◎自然保護委員会研修会

期 日 7月10日（土）11日（日）
場 所 雨竜沼自然観、雨竜沼湿原
参加対象 自然保護指導員
参加費 6,500円
申 込 6月30日まで 田中清子（Fax0126-44-2752）
詳 細 道岳連HP（<http://www.hokkaido-haa.net/>）自然保護委員会ページ参照

◎沢登り・登攀研修会（指導員義務研修）

期 日 7月10日（土）11日（日）
場 所 深川青少年尾家
参加費 6,500円
申 込 6月30日まで 明田通世（Fax011-722-8758）
詳 細 道岳連HP（<http://www.hokkaido-haa.net/>）指導委員会ページ参照

◎中高年安全登山講習会

期 日 7月17日(土)～19日(月)
場 所 国立日高青少年の家、北戸蔦別岳
参加対象 10時間の日帰り登山が出来る人
参加費 18,000円
内 容 机上講習・技術講習、北戸蔦別岳登山、講義
申 込 6月30日まで 荒堀英雄 (Fax0155-36-2226)
詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 普及委員会ページ参照

◎ジュニア少年少女登山教室

期 日 7月31日(土) 8月1日(日)
場 所 道岳連「日高登山研修所」とその周辺
参加対象 小・中学生以上の児童生徒及び保護者
参加費 子供3,000円、大人5,000円
内 容 講義、クライミング体験、花火・交歓、坊主山登山
申 込 7月10日まで 増子麗子 (Fax0157-61-9960)
詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) ジュニアのページ参照

◎高所登山講習会

期 日 8月21日(土)～23日(月)
内 容 富士山登山(須走口)、小富士登山 or グランドキャニオン見学
参加対象 日帰り装備で6時間程度歩ける人
費 用 85,000円 最小実施人数5名
申 込 7月22日まで 工藤 寛 (Fax011-386-2725)
詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 海外委員会のページ参照

◎全道交流登山会

期 日 8月28日(土) 29日(日)
場 所 苫小牧市青少年キャンプ場、樽前山・徳舜別山の6コース
参加対象 道岳連傘下各山岳団体
参加費 3,000円
詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>)

◎北海道アウトドアフェスティバル

期 日 9月19日(日)、25日(土)、26日(日)
場 所 ルスツリゾート
内 容 19日 ノルディックウォーキング
25日 ログイニング(3時間・6時間)
26日 トレイルランニング(5km、15km、30km、50km)
詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 企画広報ページ参照

諸行事報告

◎平成22年度 夏期遭難対策研修会開催報告

遭難対策委員会は5月22～23日にかけて、道岳連日高登山研修所において、一般参加者8名を含め、42人が参加し、登山研修会を開催しました。

研修においては、昨年7月、大雪山トムラウシで、ツアー登山客ら18名の内8名が死亡した低体温症と対応について、悪天候の中では、早急に救助用ヘリコプターや救助隊が望めない中、自分達の命を守るため知識やセルフレスキュー実践を身につけるためのテーマに取り上げ行いました。

遭難対策委員会の指導員が講師を勤め、第1日目は、持参のツェルト付属品の確認と立木などの無い場所で、建て方の研修を行いました。ツェルトの収納に苦勞をするため、袋から出したことがない人や、引き綱などが付いていない等がありました。

その後、3班に分かれ屋外において、芝を使った簡易タンカーの作成し、実際にシートや手持ち用品を使っの救護人収容に続き搬送するまでの手順を行いましたが、救護者には安心感があり、みんなで担ぐほか地面を引くこともできることや、比較的少人数でも搬送することができることが確認されました。ただし、芝ぞりを大きくすることでの重量などの課題もでてきました。

2日目は、一般参加者も交え低体温症の症状のほか、対応に必要な装備や衣服、エネルギーと食事の基礎的知識の講義後、再度野外でのツェルト組み立ての実習を行いました。

トムラウシ山での事故では、装備していた衣服等使わず無くなった人もおり、この研修において、基礎的知識もさながら、悪条件の中においても自らの命を守るため実践できる研修を行うことが大事であることを確信しました。

◎公認山岳スポーツ指導員養成講習会（1）

去る5月29日（土）30日（日）の二日間、日高青少年の家と上滝ロックゲレンデを舞台に、今年度公認山岳スポーツ指導員に挑戦する人達の第一回の講習会が行われた。参加者は道内各山岳会から27名が参加し、熱心に受講した。

一日目は座学で四つの講義が行われた。

まず明田講師によるパワーポイントを使った「指導員検定基準」の説明があり、用具・共同装備・個人装備の指導法、登山

計画書の作成、体力や運動生理学・救急法の指導法などが講義された。次に登山の実際について歩き方、ルートの取り方、生活



生活技術の細部にわたる説明があり、最後に危急の要因と予知に関して雷・熱中症・低体温症などの具体的説明がなされた。



二講目は藤木講師による「岩場での行動とロープワーク」の講義が前半はパワーポイント、後半は実技という形で行われた。ロープ扱いが初めての受講者もいて、終始和やかな笑いのうちに講義が進行した。

夕食の後には荒堀講師による「登山の基本・歩行技術・テント泊」の講義が行われ、四講目は藤原講師による「搬送レスキュー」の講義が、増子講師をモデルに実技を交えて行われた。

夕食を挟んでのかなりきつい講習だったため、夜の懇親会は大変賑やかなものとなった。

二日目は青少年の家から車で30分ほど上流にある「上滝ロック」のゲレンデで、基本的なアルパインロッククライミングの実習が行われた。メニューは岩場のトラバース、20mの懸垂下降、30mのロッククライミングを班ごとに分けて実習した。慣れた者、初めて挑戦する者さまざまななか、時間の経つのも忘れて熱心な講習が行われた。特に初心者はロープの掛け替えで苦勞していたようである。

講習が終わったのは5時近かったが、受講者は皆満足そうな顔で家路についた。



◎日本山岳協会・日本勤労者山岳連盟 創立50周年記念講演

「UIAA登山者教育のスタンダードを学ぶ」

UIAA(国際山岳連盟)登山委員

スティーヴ・ロング氏

日本山岳協会と日本勤労者山岳連盟が今年共に創立50周年を迎えるに当たり、両者共催での記念講演が企画され、東京・大阪・札幌の三会場で開催された。札幌講演は東京講演に次いで6月1日午後6時から「札

幌エルプラザ」3階ホールで開催された。

当初、講演の内容が専門的で参加者が少ないのではないかと懸念されたが、256名と予想外の盛況で北海道岳人の関心の高さに驚かされた。因みに、東京会場の参加者は200名余りであった。

スティーヴ・ロング氏は、イギリス山岳リーダートレーニング機構主任指導員として登山指導及び国際登山リーダーの資格認定を行う他、山岳ガイドや安全登山指導の第一人者として活躍しており、現在はUIAA（国際山岳連盟）の登山委員をしている。



講演はパワーポイントを使って行われ、通訳は早稲田大学准教授で労山国際部員の大和田氏が行った。

まずロング氏の登山実践の数々が30分ほど紹介され、引き続き本題に入った。

内容は、「UIAAとは」と「イギリスの山岳リーダー養成機構」の二つの部分からなり、最後にあらかじめ北海道で要請した質問に答えるというものだった。

UIAAの活動については、標準指導者育成要綱の作成過程とその内容、この要綱に基づいて指導者認定を行っている国と団体が紹介された。ついで実際の指導者認定の実態として、認定評価が行われる実地の調査の様子や評価風景、プログラム評価を求める際の必要事項などつぶさに紹介された。更に考査（査定）委員の適格性の審査状況なども紹介され、山岳指導者の査定が極めて組織化され厳正厳格な認定評価がなされている状況に、参加者一同は感銘を受けた。

イギリスの山岳リーダー養成機構はこのUIAAの標準指導者育成要綱のきっかけとなったもので、さすがに世界の近代登山界をリードしてきた国との感が深められた。

その歴史もさることながら、イギリス全体を網羅する標準化された指導者育成組織のあり方には驚かされた。

国家資格リーダーとしては10分野の訓練と資格を必要とし、①里山ハイキングリーダー資格、②山岳リーダー資格、③冬期山岳リーダー資格、④国際山岳リーダー資格、⑤人工壁クライミング指導資格、⑥シングルピッチ・クライミング指導資格、⑦人工壁リードクライミング指導資格、⑧登山指導者資格、⑨夏期登山指導者資格、⑩登山指導者免許証の多岐にわたっている。

こうした訓練や認定資格の一部は地域ごとに研修システムが作られており、また、国際山岳ガイド連盟公認ガイドなどの資格にも繋がっている。

スティーヴ・ロング氏は奥様とご子息を伴って前日に札幌入りした。奥様は来日直前に乗馬で足を骨折していたが、彼女自身優れた登山家であり、大学生のご子息も着実に登山家の道を歩み始めているという、まさにロング氏一家は家族ぐるみの登山家という面目躍如たる印象だった。

ロング氏が札幌で一番印象的だったのは、夜の懇親に集まった50名に近い道内山仲間の陽気さと親しみやすさ、熱心さとのことだった。ご子息曰く、「こんな仲間と山に登れたらいい」。

◎第 49 回 北海道高等学校登山選手権大会

兼 第 54 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会（神威岳・烏帽子岳／札幌岳・空沼岳）

6月22（火）～25日（金）の四日間、定山溪周辺の山を舞台に、高体連全道登山大会が行われた。最近高校山岳部の廃部が続き、次第に参加校が減って代表校を出せない地区も出てきている現状であるが、それでも49回の伝統を誇る高校の登山大会として、若さ溢れる大会となった。

参加は男子9地区13校71名、女子6地区7校36名の合計107名で、初日はホテル鹿の湯でペーパーテストと講演（小野会長）が行われ、二日目は神威岳・烏帽子岳の往復、三日目は札幌岳～空沼岳の縦走で健脚を競いあつた。

道岳連からは小野会長を始め、札幌山岳連盟から4名、えぞ山道会（高体連登山部顧問OB会）から4人が大会役員として支援に当たった。

二日目の神威岳・烏帽子岳は今にも降りだしそうな天候だったが、下山してキャンプ場（定山溪自然の村）に着いてから振り出すという幸運に恵まれた。神威岳頂上直下のロープ場で少し手こずったり、落伍しそうな学校も出たが、最後は全員無事に踏



雨の中、縦走を終えて下山する男子隊

破することができた。

三日目の男子隊は雨の中を札幌岳・空沼岳の長距離コースに挑戦、途中一時激しい雨に会ったが、札幌岳から引き返した1校を除いて12校全員無事に完踏した。札幌岳・空沼岳の縦走路は未整備の部分が多く、崩れたトラヴァース箇所や笹の被った箇所が多く心配されたが、さすがに若い選手は元気はつらつと歩き通し、顧問団もしっかりと歩いて、その健脚ぶりに驚かせられた。他のスポーツと



前日までとは打って変わった快晴の下の表彰式

異なり、顧問監督も選手と同じ行動をするのが山岳競技の特徴だとは言え、高体連競技の中では顧問にとって過酷な種目だと思い知らされた。

空沼岳往復予定の女子隊は、激しい雨のため万計小屋で休憩した後、大事をとって引き返した。

夜は自然の村の広場で選手・監督・役員全員が参加して焼き肉パーティーに舌鼓をうちながら、互いの健闘を讃え合う楽しい夜となった。

競技の結果は、男子最優秀校は札幌北高校、優秀校に旭川東校・札幌南高が選ばれ、女子最優秀校は旭川東校、優秀校に札幌南高・北見北斗校が選ばれた。最優秀校は8月に開かれる全国大会に出場する。

高校の登山競技は、山岳知識を問うペーパーテストに始まり、行動中は体力、歩行技術、マナー、装備、

設営撤収、炊事、計画書・天気図の作成、行動中メンバー一人ひとりに出される行動テストなど、登山・生活あらゆる点について審査して優劣を競う大会である。まさに若い高校生世代が登山の原点を学ぶ、素晴らしい意味を持った大会だとの印象が残った。

次号からの「道岳連だより」はHPで

次号から担当者の負担軽減という観点から、道岳連ホームページを見ることのできる加盟団体には、郵送をしないことにしたいのですが、ホームページ上にご意見をお寄せください。パソコンが整備されていない加盟団体には、これまで通り郵送いたします。メールアドレスを当連盟に通知していない加盟団体がありましたら、至急ご連絡ください。

発行 北海道山岳連盟

事務所 札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502 小野 倫夫

編集担当 神山 健